

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500639		
法人名	医療法人清樹会		
事業所名	グループホーム碧		
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活歴や医療情報を共有し、事業所理念に即した「和みのある家庭的な生活」を目標としている。職員や入居者同士がふれあえる場として、広々としたホールで心豊かに過ごせる生活の場の提供と、個々の能力に合わせた自立支援を実施している。新型コロナウイルス感染予防により外出の機会が減っているが、館内で体感できる四季折々の行事を多く計画し、入居者が季節を感じられ、日々楽しく過ごせるよう実施している。様々な医療ニーズや終末期(看取り)にも対応できるように看護師を配置し、各医療機関との連携を密にとり、最後まで安心した生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、吉野川沿いの住宅地に位置している。敷地内には、同一法人の運営する他サービス事業所が併設し、協力関係を築いている。笑顔を大切にした理念を掲げ、毎月理念に基づいた目標を立てることで、実践に繋がっている。職員は、意見や提案を出しあいつつ、理念に基づき、利用者とともに楽しい生活をおくることができるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、地域の自治会や婦人会とのやりとりを継続している。家族等とは、定期的な連絡とともに、状況に応じて連携を図り、意見を引き出している。出された意見をもとに、事業所内のリフォームに繋げるなど、風通しの良い職場環境を整えている。協力医療機関から週5回の往診があり、緊急時の連携体制を整備し、利用者や家族等の安心につなげている。外部評価実施後は、報告会を開催するなど、サービスの質の向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合う事で繰り返し確認し、理念に沿った業務が実践できるようにしている。	事業所では、開所当初からの理念を大切にしている。理念は、玄関や事務所に掲示し、ミーティング等で確認している。職員は、毎月、理念に基づいた具体的な目標を作成し、より一層理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のイベント等に招待頂き参加できていたが現在は新型コロナ感染予防の為、外出を自粛しているため交流はあまりできていない。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下においても、地域の自治会と連絡を取りあったり、民生委員から差し入れを受けたりしている。近隣のコンビニエンスストアに買いものに出かけるなど、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症の方について適切な介護方法や接し方について説明を行い啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議は面会制限があった為、書面報告を行い適宜、関係者よりアドバイスや助言を頂きサービス向上に活かすようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員へ書面で事業所の報告を行い、意見をj得ている。出された意見は、議事録にまとめ、職員間で協議・共有するなどして、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議(書面報告)に参加して頂くと共に月初めには入居状況を担当窓口(健康推進課)へ報告し、助言やご協力を頂いている。	管理者は、定期的に町の担当窓口を訪問し、事業所の状況等を伝えている。日ごろから電話やメールでもやりとりし、担当者に事業所を理解してもらうとともに、必要な情報提供や助言を受けるなど、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在は行っていない。しかし定期的な身体拘束委員会の開催や事業所研修を受講し、正しい理解と身体拘束をしないケアの実践と意識づけに努めている。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会や研修を開催している。日ごろの支援のなかでも、職員から出た身体拘束に関する疑問について話し合いを行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な事業所研修やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされる事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名が成年後見制度利用。制度については事業所研修を受講し学ぶ機会を設けている。そして必要な場合には権利擁護に関する制度を活用し、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明し理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。面会時にはこちらから積極的に声をかけ、意見をじっくり聞くようにしている。	事業所では、日ごろのかかわりのなかで、利用者の意見や要望を聞きとっている。家族等からは、面会時に意見を聞いている。毎月、電話連絡やメール等で利用者の状況を伝え、意見を引き出している。出された意見を検討し、事業所のリフォームに繋げるなど、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夏・冬の個人面談や随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き検討し運営に反映している。	管理者は、日ごろから職員とのコミュニケーションを大切にし、意見や提案を引き出している。ミーティングや個人面談等、意見を聞く機会を設けている。出された意見等は、職員間で検討したり、法人に伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。また法人管理者が中心となり業務改善委員会・風紀向上委員会を運営。向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、e-ラーニング、同法人GH合同オンライン事例検討会議など積極的にすすめ、多くの職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと事例検討会議や職員同士が交流を持てるようWEB会議を開催。相互の活動について話し合える機会作りや悩みや対応方法を学び、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前と入居後に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会を作り把握に努めている。また、必要に応じて家族と連絡を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのように対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人が役割を持って頂き、共同生活に自己の存在意義を感じていただけるきっかけ・場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事等の情報を共有できるよう定期的に連絡するように努め、適度な距離感と家族と共に同じ思いを持ち、支援させてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も家族、友人や知人との交流ができる面会(オンライン等)の支援をし引き続き交流ができるように働きかけている。	事業所では、オンラインでの面会や電話・手紙のやりとりを支援している。定期受診の際には、利用者の自宅周辺や馴染みの場所をドライブしたり、話題に挙げたりして、馴染みの人や場所への思いを継続できるよう取り組んでいる。利用者の希望があれば、感染状況に応じて、一時帰宅できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、お互いを尊重出来るよう配慮し、気の合う同士で楽しく過ごせる時間作りやきっかけ作りを職員が心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂いたり、入居者の家族とお会いした時は近況や様子をお伺いし、相談援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	事業所では、1日のスケジュールに職員が利用者とコミュニケーションをとる時間を設けている。職員は、利用者一人ひとりにあわせたコミュニケーションを心掛け、思いや意向を把握している。利用者以外にも、家族や友人、知人、前ケアマネジャー等からも情報収集し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の声を聞き、アセスメントを作成し今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけのように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしや生活リズムに合わせ、体調や能力を確認しながら少しでもできる事を見出すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映。必要に応じて医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師や理学療法士、作業療法士の意見を取り入れている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。	事業所では、利用者や家族等の希望、専門職の意見を反映し、無理のない介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、家族等にも確認してもらっている。定期的な計画の見直しのほか、本人の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人ノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしている。また、介護記録をもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて、通院付き添いや受診送迎、外出など必要な支援や提案等はできる限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニ、民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、安全な暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によるかかりつけ医と随時対応が可能である体制を確保している。付き添いは本人が不安がないよう家族様と同行して頂けるよう支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等の受診には、家族の協力を得つつ、支援している。週5回、協力医療機関の医師の往診と週1回、協力歯科医の往診がある。夜間や緊急時の対応を含め、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護職員を配置している。敷地内看護職員と協力体制の整備もできており、連携医療機関との連携も密に取れている。様々な状況に応じて相談支援を得られる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療機関と情報を密にし、早期退院や退院後の生活に向けて意見交換や相談に努め連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援説明を職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームでできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。	事業所は、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を再確認している。終末期や看取りに関する研修を行い、医療機関や併設施設と連携し、意向に添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の勉強会や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、1Fデイサービスと合同で消防・災害時避難訓練を実施している。地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害発生に備えての防災意識を高めている。	年3回、日中と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。訓練には、利用者全員が参加し、実際に避難に取り組んでいる。近隣のコンビニエンスストアに災害避難時の協力を依頼している。備蓄品を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、さりげない表情や言葉かけや対応又、居室の出入りに当たっては入居者のプライバシーに配慮している。	職員は、利用者と家族のような関係であっても、馴れあいにならないよう礼節を保った支援に努めている。排泄や入浴支援など、職員間で確認・注意しあいつつ、プライバシーに配慮している。e-ラーニングを利用してプライバシーに関する研修を受講し、サービスの質の向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者にお声をかけ、好みに応じて支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などは強制せず、その日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を基に、家族に本人好みの服を持ってきてもらい、可能な限り自分で着るものを選んでもらい個性を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。	事業所では、利用者の希望等を聞きとり、調理している。食材の納入から片づけまで、利用者と一緒にやっている。菜園で栽培した旬の野菜を利用したり、季節に応じた食事やおやつを提供したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士へ相談の元、量やバランスを考え楽しんで食べて頂けるよう支援している。状況に合わせてミキサー食、刻み食、栄養補助食品等対応、体重管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできる事、出来ない事を把握し、個別に必要なはたらきかけをしている。協力歯科医に助言や指導を受け、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、一人ひとりにあった排泄支援をしている。用品の費用負担が増えないように定期的に見直し、トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せる様な支援をしている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の心身状況に応じて、座席の配置を工夫するなど、自然にトイレに行くことができるよう働きかけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり食事内容を再検討している。また、適度な運動をして頂く働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせて清拭に変更したり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じて、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。利用者の恐怖心の軽減や安全のために、職員二人での介助や浴室機器の工夫を行っている。季節に応じて、ゆず湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指示やアドバイス通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。菜園で季節の花や野菜作りや収穫を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩は取り入れているが、外出は新型コロナウイルス感染予防のためできていない。その分、館内で楽しんで頂けるよう行事を充実して行っている。	事業所では、日ごろから敷地内の散歩やベランダでの花見等、外気に触れる機会を設けている。ドライブで紅葉を見に行くなどして、外出を支援している。今年から、発泡スチロール等を活用し、米づくりに取り組むなど、屋外での活動を増やし、利用者の楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。また、利用しやすい雰囲気作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生花や飾りつけ、テレビ、新聞、週刊誌、水槽、マッサージ機等を用意し、居心地よく生活ができるように努めている。	共用空間は、見渡しやすく、広々としている。クッションフロアとなっており、安全面に配慮している。観葉植物や水槽を配置し、利用者が世話をするなど、楽しみに繋がっている。職員が手づくりした神社や賽銭箱を設置し、事業所内でも初詣気分を味わうことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル、椅子、ソファ、入居者同士や家族で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も積極的に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みのある物や思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。職員は、環境整備委員会を立ち上げ、居室の環境をチェックし、快適で安全な居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討を行っている。トイレ前や居室前には看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合う事で繰り返し確認し、理念に沿った業務が実践できるようにしている。					
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のイベント等に招待頂き参加できていたが現在は新型コロナウイルス感染予防の為、外出を自粛しているため交流はあまりできていない。					
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症の方について適切な介護方法や接し方について説明を行い啓発に努めている。					
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議は面会制限があった為、書面報告を行い適宜、関係者よりアドバイスや助言を頂きサービス向上に活かすようにしている。					
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議(書面報告)に参加して頂くと共に月初めには入居状況を担当窓口(健康推進課)へ報告し、助言やご協力を頂いている。					
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は1名あり。身体拘束委員会の開催や研修を受講し、正しい理解と身体拘束をしないケア及び解除に向けての実践と意識づけに努めている。					
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な事業所研修やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされる事がないように努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用者なし。制度について理解し必要な状況に応じて活用できるよう研修等にて学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明と理解が得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。面会時にはこちらから積極的に声をかけ、意見をゆっくり聞くようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夏・冬の個人面談や随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き検討し運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。また法人管理者が中心となり業務改善委員会・風紀向上委員会を運営。向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、e-ラーニング、同法人GH合同オンライン事例検討会議など積極的にすすめ、多くの職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと事例検討会議や職員同士が交流を持てるようWEB会議を開催。相互の活動について話し合える機会作りや悩みや対応方法を学び、サービスの向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前と入居後に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会を作り把握に努めている。また、必要に応じて家族と連絡を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのように対応ができるか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人が役割を持って頂き、共同生活に自己の存在意義を感じていただけるきっかけ・場面作りや声掛けを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事等の情報を共有できるよう定期的に連絡するように努め、適度な距離感と家族と共に同じ思いを持ち、支援させてもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も家族、友人や知人との交流ができ面会(オンライン等)の支援をし引き続き交流ができるように働きかけている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、お互いを尊重出来るよう配慮し、気の合う同士で楽しく過ごせる時間作りやきっかけ作りを職員が心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂いたり、入居者の家族とお会いした時は近況や様子をお伺いし、相談援助している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようになっている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の声を聞き、アセスメントを作成し今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしや生活リズムに合わせ、体調や能力を確認しながら少しでもできる事を見出すように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映。必要に応じて医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師や理学療法士、作業療法士の意見を取り入れている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人ノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしている。また、介護記録をもとに介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて、通院付き添いや受診送迎、外出など必要な支援や提案等はできる限り対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		近所のコンビニ、民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、安全な暮らしができるよう支援している。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		本人や家族の希望によるかかりつけ医と随時対応が可能である体制を確保している。付き添いは本人が不安がないよう家族様に同行して頂けるよう支援している。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		日中は看護職員を配置している。敷地内看護職員と協力体制の整備もできており、連携医療機関との連携も密に取れている。様々な状況に応じて相談支援を得られる体制を確保している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入退院の際は医療機関と情報を密にし、早期退院や退院後の生活に向けて意見交換や相談に努め連携を行っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化の支援説明を職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームのできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		救急救命の勉強会や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年3回、1Fデイサービスと合同で消防・災害時避難訓練を実施している。地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害発生に備えての防災意識を高めている。				

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、さりげない表情や言葉かけや対応又、居室の出入りに当たっては入居者のプライバシーに配慮している。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者にお声をかけ、好みに応じて支援するようにしている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などは強制せず、その日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を基に、家族に本人好みの服を持ってきてもらい、可能な限り自分で着るものを選んでもらい個性を大切にしている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士へ相談の元、量やバランスを考え楽しんで食べて頂けるよう支援している。状況に合わせてミキサー食、刻み食、栄養補助食品等対応、体重管理も行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできる事、出来ない事を把握し、個別に必要なはたらきかけをしている。協力歯科医に助言や指導を受け、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。					

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、一人ひとりにあった排泄支援をしている。用品の費用負担が増えないように定期的に見直し、トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せる様な支援をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり食事内容を再検討している。また、適度な運動をして頂く働きかけも行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせて清拭に変更したり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指示やアドバイス通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。菜園で季節の花や野菜作りや収穫を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩は取り入れているが、外出は新型コロナウイルス感染予防のためできていない。その分、館内で楽しんで頂けるよう行事を充実して行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要時に使えるように支援している。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。また、利用しやすい雰囲気作りに努めている。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生花や飾りつけ、テレビ、新聞、週刊誌、水槽、マッサージ機等を用意し、居心地よく生活ができるように努めている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル、椅子、ソファ、入居者同士や家族で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も積極的に行っている。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みのある物や思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討を行っている。トイレ前や居室前には看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。					